

令和6年度 学校自己評価書

小美玉市立竹原小学校 校長 松代 由美

1 今年度の取り組みの概要

学校経営の基本方針を「楽しく元気な学校づくり」とした。基本方針を実現させるため、①「主体的・対話的に学び、分かる喜びを得られる学校」②「あいさつから始まる温かい人間関係で満たされる学校」③「活躍のチャンスがあり、何事にもチャレンジできる学校」④「保護者や地域と連携・協力し、環境の整った美しい学校」の各項目について具現化に努める。そして特に「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「活力の育成」について、達成目標を設け具体的な方策の実践に取り組む。

<達成度 A：十分に達成 B：おおむね達成 C：達成せず D：課題が残る>

◎ 組織目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1

達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
確かな学力の育成 ○主体的、対話的な学習を通して、確かな学力を育成する。	◎ペア・グループ活動の充実 ・対話することで主体的に学ぶ授業づくり ・ICTを活用した伝え合う活動の充実 ・課題解決に向けた協働的な学び ◎特別支援教育の充実 ・インクルーシブ教育の推進 ○読み取る力・筋道立てて考える力の育成 ・言語能力の育成 ・国語科モジュール時間の活用 ◇自分の考えを表現できる 80%以上 ◇ペア・グループ活動を行うと授業が分かりやすい 80%以上	・校内での相互授業参観や美野里地区小中一貫教育に係る計画訪問等での相互授業参観を計画的に実施することを通して、協働的な学びへの授業改善を図ることができた。 ・タブレットを活用した学習に、授業や家庭でも抵抗感なく取り組む児童が増えた。 ◇「自分の考えを表現できる」肯定的な回答が73.8%であった。 ◇「ペア・グループ活動をする」と授業が分かりやすい」肯定的な回答が89.4%であった。	B
豊かな心の育成 ○「あいさつ、あとしまつ、ありがとう」を励行し、友達を認め、人に感謝することのできる豊かな心を育成する。	◎元気なあいさつの実践 ・児童主体のあいさつ運動 ◎絆づくりと居場所づくり ・縦割り活動の充実 ・一人一人の居場所づくり ○互いのよさを認め、自分のよさを発揮できる場の工夫 ・特別活動の充実 ○感謝できる心の育成 ・考え、議論する道徳 ◇挨拶が自分からできる80%以上 ◇縦割りでの活動が楽しい90%以上	・元気な挨拶ができるように、代表委員、11月には各学年の児童や学校運営協議会委員及び地域の方が正門前に立って挨拶運動を行うことができた。 ・昨年度まで欠席が多かった児童の欠席日数が減少し、不登校児童数も減少した。 ◇「挨拶が自分からできる」肯定的な回答91.1%であった。 ◇「縦割り班活動が楽しい」肯定的な回答85.5%であった。	A
活力の育成 ○小さなことも「認め、ほめ、ともに喜ぶ」ことを通して、一人一人の持ち前を育む。	◎活躍の場づくり ・一人一役の係、委員会活動 ・実行委員会活性化 ・積極的生徒指導 ◎運動の日常化 ・外遊び奨励 ○保健安全教育の充実 ・健康教育の推進、充実 ・安全教育の徹底 ○基本的生活習慣の確立 ・早寝・早起き・朝ごはんの推進 ◇学校が楽しい90%以上 ◇外遊びを積極的に行っている80%以上	・学級活動や学校行事を通して、小さなことも「認め ほめ とともに喜ぶ」ことで、一人一人の持ち前を育み、自己肯定感を高めることができた。 ・外遊びを奨励し、教職員も一緒に遊ぶことで積極的に外遊びをする児童が増えた。 ◇「学校が楽しい」肯定的な回答89.4%であった。 ◇「外遊びを積極的に行っている」肯定的な回答88.8%であった。	A

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

○学力向上について

確かな学力の育成として、「主体的・対話的な深い学びを通して、確かな学力を育成する」として取り組んできた。校内研修においては、学習の中でペア・グループ活動を積極的に取り入れ、協働的な学習への授業改善を図った。また、児童の自己肯定感を高めるように授業展開や学習活動を工夫するように推進した。

本校の県学力診断のためのテストの結果から、概ね県平均であったが、各学年共に県平均を下回る教科があったので、補充学習を進めている。また、各教科においては、自分の考えを表現すること（アウトプット）にまだ抵抗感がある児童が多く、課題が残る。

次年度に向けて文章表現を中心にして学力の向上を図っていく。今後も誤答傾向の分析などをさらに進め、授業改善を図る。

○豊かな心の育成について

今年度の組織目標「児童の自己肯定感の向上」に基づき教育活動を展開した。「あいさつ、あとしまつ、ありがとう」を励行し、友達を認め、人に感謝することのできる豊かな心を育成することに取り組んできた。挨拶については、代表委員が毎月挨拶運動を行ったり、11月には各学年の児童が正門前に立って挨拶運動を行ったりしてきた。学級においては、絆づくりと居場所づくりを行い、自己肯定感を高めるようにしてきた。そして、学校ボランティア等でお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える場を設けることで、感謝する心の育成を図ってきた。また、人権を意識した学校生活について教職員間で確認し、人権感覚や人権意識をもつことで、児童に人権を大切にすることを伝えられるようにした。道徳の時間には、自分の考えを出し合える雰囲気づくりや肯定的に意見を聞く姿勢の指導を通して、道徳性の向上に努めた。幼小連携では、よつば幼稚園と定期的に連絡調整を実施し、運動会の合同実施や低学年との交流学习等を通して交流を更に深めてきた。

次年度は、児童主体で校外学習や運動会、田植え・稲刈り等の学校行事を実施し、一層の自己肯定感の向上を図ると共に、各集団の絆を深める。

○活力の育成について

活躍の場づくりとして、「小さなことも『認め、ほめ、ともに喜ぶ』」ことを通して、一人一人の持ち前を育む」として取り組んできた。ふれあい集会においては日頃からお世話になっている方々へ感謝の気持ちを伝えることができた。また、集会に向けて児童主体での活躍の場を設定し取り組んできた。運動の日常化については、持久走大会やなわとび集会に向けて児童が自分の目標をもって取り組み、全校児童が真剣に練習したり、大会や集会に臨んだりすることができた。休み時間には多くの児童が運動場に出て、活発に運動に取り組む姿が多く見られるようになった。保健安全教育では、外部講師を招いて「いのちの安全教室」等を実施しながら、教育効果を高めることができた。

基本的な生活習慣の確立については、ほぼ基本的な生活習慣が身に付いているが、食に習慣に課題が残った。好き嫌い無く給食が食べられるよう栄養教諭や家庭と連携し、食習慣の改善に努めていきたい。

3 保護者や地域への皆様へ

○ 学校経営の基本方針を「楽しく元気な学校づくり」とし、学校全体として「児童の自己肯定感の向上」を組織目標とし取り組んできました。挨拶については、元気な挨拶ができるように、本県の教育月間に合わせ11月に各学年の児童が学校運営協議会委員、地域の方々にご協力いただき、正門前での挨拶運動を行ってきた。学級においては、小さなことも「認め ほめ とともに喜ぶ」ことで、絆づくりや居場所づくりを行い、自己肯定感を高めるようにしてきました。また、学校ボランティア等でお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える場を設けることで、感謝できる心の育成を図ってきました。今年度は、校外学習や運動会、田植え・稲刈り、感謝のつどい等の学校行事やたて割り班活動を通して、各集団の絆を深めてきました。また、保護者や地域の方々の協力を得ながら、学校の教育活動を充実させ、児童の成長を促す活動に積極的に取り組みました。

○ 児童の学校生活アンケートでは、「学校が楽しい」について肯定的に答える児童が約90%。また、「早寝・早起き・朝ごはんを実行できている」については、肯定的にできていると回答した児童が約85%でした。基本的な生活習慣の定着が見られています。

○ 学校運営協議会委員の方々からのご意見

- 今年度に引き続き、地元の行事等に積極的に児童が参加するように、学校との連携を進めていきたいです。
- 挨拶運動については、民生委員などへ参加を呼びかけて、地域全体の取組になればよいと思います。
- 学校運営協議会委員が同士の仲も深まり、アイデアが出しやすくなるような協議会が企画できればと思います。
- 講演（防犯教室、タップダンス、糸操り人形劇）と授業参観と児童の発表を、学校運営協議会と同時に行うことで、地域の方々に学校運営協議会の人や活動を知ってもらえる機会になると思います。

貴重なご意見をありがとうございました。今後の教育活動につなげていきたいと思っています。